



トヨタの研究と創造の精神に触れる

## トヨタ産業技術記念館

ここは1911年に豊田佐吉が自動織機開発のための試験工場「豊田自動織布工場」を開設し、その後、旧豊田紡織本社工場となった場所です。(株)豊田自動織機製作所やトヨタ自動車工業(株)の設立総会が開催されるなど、トヨタグループ発祥の地でもあります。大正時代の赤レンガの工場建屋を保存・活用し、1994年に繊維機械と自動車の産業と技術の変遷を示す産業技術記念館が設立されました。

記念館建物や織機等の所蔵物は、経済産業省の近代化産業遺産に認定されています。



1 エントランスにある環状織機(デモンストレーションあり) 2 自動車のしくみや生産技術を示した自動車館 3 大正時代に建てられた紡織工場、建屋をそのまま使用した繊維機械館 4 パートナーロボットによる演奏

### トヨタ産業技術記念館

名古屋市区則武新町4-1-35 ☎052-551-6115  
 開館時間/9:30~17:00(入場受付16:30まで)  
 休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始  
 URL <http://www.tcm.it.org/>



文化と出会い、森に憩う。

## ノリタケの森

1904年、日本陶器合名会社(現ノリタケカンパニーリミテド)が、この地に洋食器工場を建設。数々の苦難を乗り越え、1914年に日本で初めて白色硬質磁器のディナーセットの製造に成功しました。その後、高圧碍子や衛生陶器の研究を開始、日本ガイシとTOTOの誕生につながりました。まさにこの地は近代陶業発祥の地といえます。ノリタケが創立百周年を記念して、2001年に本社敷地内に整備したのが「ノリタケの森」です。広大な敷地には、四季折々の樹木が植えられ、訪れた人々は豊かな緑に囲まれて憩いの時間を過ごしています。

旧工場跡6本煙突や旧製土工場等は、経済産業大臣認定の近代化産業遺産。

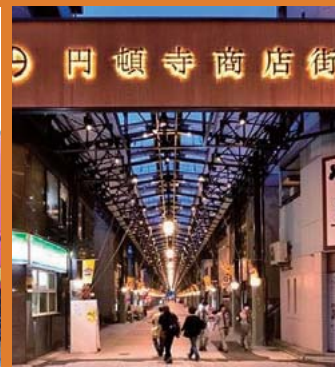


1 クラフトセンターでは、職人による絵付けをはじめとする陶磁器の製造工程の見学が可能 2 旧工場跡6本煙突 3 絵付け体験コーナー 4 ミュージアムでは歴史的・文化的価値の高い「オールドノリタケ」をご覧ください

体験  
できます!

### ノリタケの森(クラフトセンター・ノリタケミュージアム)

名古屋市区則武新町3-1-36  
 開館時間/10:00~17:00 ☎052-561-7114  
 休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始  
 URL <https://www.noritake.co.jp/mori/>



賑わいと生活の密なる空間

## 円頓寺商店街界隈

名古屋の城下町形成とともにできた街であり、随所にその面影を残しています。商店街に名づけられた圓頓寺をはじめ、慶栄寺、専修寺などの仏閣や「清須越し」で名を移した五条橋、四間道と土蔵群、旧商家や屋根神さま、子守地藏尊など、歴史資源が今なお存在します。

また、歴史ある商店街では下町情緒を感じながらお買い物や食べ歩きを楽しめるほか、七夕まつりをはじめ、さまざまなイベントが開催されています。



生活の知恵が生んだ  
“まちかど文化財”

## 屋根神さま

その名のとおり屋根にまつられている神さまのことです。地域の守り神として町内や隣組などの小組織で守られており、もともと神さまをまつる地所がなかったことから屋根の上や軒下にまつたのがその始まりと言われています。名古屋市内の半数が西区にあります。



歴史と都心のコントラスト

## 蔵が並ぶ四間道

「清須越し」によってつくられた商人町で、1700年の大火の後、町中の延焼を避けるため道幅を四間(約7m)に拡幅したことからその名がついたとも言われています。堀川の水運を利用して米穀、塩、味噌、酒、薪炭などを城下町へ供給する、清須越商家が美濃路側に軒を並べて繁栄しました。その商家の蔵が建ち並んだ四間道は、東側の石垣の上に土蔵群、西側には町家群からなる珍しい町並みを、今なお見ることができます。名古屋市中並み保存地区。



時代を越え、  
人々が行き交った道

## 歴史街道 美濃路

美濃路は東海道宮宿(熱田区)と中山道垂井宿(岐阜県垂井町)をつないだ街道です。宮宿と桑名宿の間が海路で天候に左右される東海道より、陸路である美濃路がよく利用されました。1610年、家康により尾張の首府が清須から名古屋へ移され、清須越しといわれました。短期間に大規模な都市移転が行われ、各地から様々な職人や商人が集まり、多くは西区の美濃路沿いに店を並べ、ものづくりの気風が育ちました。堀川沿いには今も清須越商家の町並みが残され、四間道と一体となり名古屋市中並み保存地区を形成しています。